

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 8月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4672700095
法人名	医療法人 蒼風会
事業所名	高齢者グループホーム りんどう
所在地	南九州市川辺町平山6910番地 (電話) 0993-56-4976
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54-15
訪問調査日	平成21年8月2日

## 【情報提供票より】(21年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 174,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉病院、かわなべ共立内科、宮園外科医院、川路歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川辺町の中心地に立地し、精神科医療の先進的病院が母体にある。障害者グループホームや就労事業、デイケアの事業と連携し、訪問看護やかかりつけ医の協力のもと、入居者の健康管理を行うことで家族からの信頼も厚い。「地域の方々と一緒に」と職員と入居者、家族が話し合っって作った独自の理念があり、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれ、入居者を寂しくさせない心遣いのできる職員が育成されている。また管理者と職員は気軽に意見を言い合える環境で、信頼関係が形成され、職員同士が仲がよく働きやすく、入居者も来訪者もほっとするホームである。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し具体的な取り組みについて話し合いが行われているようだが、書面での確認ができなかった。評価結果はだれもが閲覧できるように玄関に設置されている。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者と職員が全員で話し合った結果をまとめた。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月ごとに開催され、民生委員・老人会長・市の職員・家族代表などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっている。外部評価結果のコピーを配り意見を聞くなど前向きに会議を活用していることがうかがえる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に写真を利用し利用者の暮らしぶりを伝えている。職員の異動については面会時に報告し、預かり金については昨年の評価結果後、家族のサインをいただき確認できるようになっている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、回覧板のやり取りや散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、幼稚園生・小中学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくりを力を入れている。とくに親子読書読み聞かせサークルの訪問イベントは入居者が楽しみにして待つほど定着し立ち寄りやすいホームとなっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々と一緒に」と職員と入居者、家族が話し合っ て作った独自の理念があり、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念はなぜ必要か」ということを図式を用いてわかりやすく示した独自の文書を事務所に掲示するとともに、玄関、職員用トイレに理念を掲示し、必要に応じて管理者が説明を行っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板のやり取りや散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけ、幼稚園生・小中学生との交流、地域行事への参加などにより関係づくりに力を入れている。とくに親子読書読み聞かせサークルの訪問イベントは入居者が楽しみにして待つほど定着し立ち寄りやすいホームとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し、具体的な取り組みについて話し合いが行われているようだが、書面での確認ができなかった。評価結果はだれもが閲覧できるように玄関に設置されている。	○	外部評価の結果について職員と話し合うとともに、取り組みを期待したい項目については職員会議等で改善にむけて話し合い、記録に残すことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催され、民生委員・老人会長・市の職員・家族代表などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっている。外部評価結果のコピーを配り意見を聞くなど前向きに会議を活用していることがうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の支所が近隣にあることからケア会議に管理者が出席したり、担当窓口へ出向いたり電話により、積極的に相談や情報交換を行い、協働して問題解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に写真を利用し利用者の暮らしぶりを伝えている。職員の異動については面会時に報告し、預かり金については昨年の評価結果後、家族のサインをいただき確認できるようになっている。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付簿を含めたマニュアル等を整備し、家族から苦情を聞きだしやすい雰囲気を作り上げている。苦情があがった場合も職員で話し合われているが、苦情相談受付簿等に流れが確認できる記載が確認できなかった。ただし、苦情の結果を運営推進会議にはかかるなど前向きな姿勢も見受けられる。	○	マニュアルを利用し、マニュアルに沿った処理をされることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、離職を防止するように努力している。異動がある時には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じた指針を含めた年間研修計画を法人単位で作成しており、それに沿って研修が進められている。外部の研修には、受講料の法人負担や、勤務調整の配慮がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内だけでなく、町内のグループホームと交流会をつくり、相互に訪問したり、研修会で意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に本人や家族にできるだけ体験入居を含めホームの見学をしてもらい、顔馴染みの関係を作っている。施設、病院からの入居の場合は担当者との連携をはかり、施設、病院で作成されたサマリーなどを参考にしながら本人がホームに馴染みやすいように気を配っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに過ごす中で得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを教えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。また、利用者同士の話しやすい話題を提供し会話や情報交換が活発になるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	訪問診療を利用し、主治医の意見を取り入れ、担当者会議を開き、利用者の希望や意向を基に話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定時にはモニタリングが行われ、モニタリングに沿った細かく丁寧な介護計画が作成されているが、月に1回程度の意向や状況の確認がとれなかった。	○	安定している利用者の場合も、月1回程度の介護計画の評価、見直しを行っていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援、家族の宿泊支援や食事の配慮など臨機応変に対応している。また、退居者への支援や個別の墓参りなどの対応もみられた。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、訪問診療との連携により健康への支援を行っている。通院介助も行われ、業務日誌を活用し連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針について管理者より家族にこと細かく説明され、家族・職員と共有されているが、書面での確認がとれなかった。	○	重度者や終末期の人を対象にしていない場合でも、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、また、日常の健康管理や急変時に対応できるよう話し合いと方針の統一が求められる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に個人情報の保護方針についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては、ミーティングで話し合い個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。利用者個人の写真等の掲示について同意書等の確認が取れなかった。	○	保護方針について、家族と話し合いを持ち、ホーム全体での確認と同意を確認できる体制が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の心得のなかに、一日のスケジュールはないとの考えを職員全員で共有し、体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に献立についての話をしたり、買い物に行ったりしながら、生活の中で食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる。利用者の意向を聞きながら希望に合わせての入浴状況である。また、入浴を嫌われる方には入浴時間帯や声かけの仕方を工夫するなど入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・創作活動・オルガン等を利用した音楽活動など生活歴から好きなことを見つけたり、入居後に新たに力を引き出したりしながら利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑仕事、ドライブなど戸外に出る機会が多い。体の状況によって外出が難しい利用者も、車いすを利用するなど本人にあわせた配慮をして、少しでも風に当たるなどの気分転換やストレス発散、五感を刺激する機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。ただ、事故防止のためやむなく玄関に電子錠をかけている。管理者、職員のなかでは、鍵をかけることへの弊害を理解しているが、書面での確認ができなかった。	○	定期的に職員会議や研修等を通して鍵をかけない暮らしの大切さや鍵をかけることの弊害について認識するとともに、家族への説明、地域への情報提供の協力を依頼するなど鍵をかけない自由な暮らしを提供するための工夫が求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回ずつ消防署との合同訓練と独自での訓練が行われ、夜間体制も含め職員のスキルアップを図っている。自動火災報知機の連絡先を地域の方にお問い合わせなど地域との連携もあり、非常時の食料備蓄の管理も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事量や水分摂取量を個人別に毎日把握し排泄状態も観察しながら身体の状態を判断しケアに活かしている。栄養バランスや献立については管理栄養士にアドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。また、一人ひとりの能力を見極め小さめに刻む、そばで見守るなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした食堂などの共有空間には花が飾られ、テーブルやソファで利用者が思い思いにくつろぐ姿がある。共有空間の飾りつけには利用者と制作した手作りの作品を使用するなど、利用者と楽しんで語り合えるように工夫され、家庭的で落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子、タンス、位牌など本人の馴染みのあるものが持ち込まれ居心地のよい空間となっており、部屋には写真やお便りなどが飾られその人らしい部屋になっている。		